



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第248回演奏会

The New Symphony Orchestra – 248th Concert

指揮 飯守 泰次郎
IIMORI Taijiro, conductor

モーツァルト「魔笛」序曲

Wolfgang Amadeus MOZART (1756-1791): Overture to the Opera "The Magic Flute" K. 620, 1791

ハイドン 交響曲104番ニ長調「ロンドン」

Joseph HAYDN (1732-1809): Symphony No. 104 in D major "London Symphony" Hob. I:104, 1795

チャイコフスキー 交響曲第6番ロ短調「悲愴」

Pyotr Ilyich TCHAIKOVSKY (1840-1893): Symphony No. 6 in b minor "Pathétique" Op. 74, 1893

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2020年 1月19日 (日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Sunday, January 19, 2020, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,500 B席: ¥1,500 (全席指定)

88 ペアチケット (お二人様で合計 88 歳以上のお客様は合計金額から 1,000 円を割引いたします。下記コンサートイマジンのみ取り扱い)

チケットのお申し込み・お問い合わせ: コンサートイマジン 03(3235)3777 *10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日を除く)

チケットのお申し込み: チケットぴあ: 0570(02)9999 <http://t.pia.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス: 0570(010)296 *10:00 ~ 19:00 (休館日を除く)

(PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www.geigeki/i/t/> *0570 で始まる電話番号は一部携帯電話・PHS・IP 電話では受付ができません。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyoku.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

今回は名曲コンサート

指揮に飯守泰次郎氏を迎え、クラシック音楽の王道ともいえるべき大作曲家の名曲を演奏します。モーツァルト、ハイドン、チャイコフスキーという作曲家の名前は皆さんご存知と思います。その代表曲をプログラミングしました。

ウィーン古典派～モーツァルト、ハイドン

コンサートの前半は、ウィーン古典派の名曲を2曲。古典派とは、18世紀から19世紀初頭の音楽で、最大の特徴は“ソナタ形式”というスタイルです。通奏低音がなくなったことでメロディがわかりやすく軽快になり、楽器も発達し現在の管弦楽に近い形となってきました。それまでは教会や王侯貴族のためにあった音楽が市民が楽しむための音楽へと変わってきたのです。200年以上たっても新鮮で、現在も親しまれています。

モーツァルトは“神童”として幼くして作曲を始めており、35歳で亡くなるも、交響曲や室内楽曲など数多くの作品を残しました。「魔笛」は亡くなる2か月前に完成した最後のオペラで、大ヒットしました。当時はイタリア語のオペラが一般的でしたが、この台本はドイツ語で書かれており、ドイツオペラの祖となっています。王子が王女を救うために魔法の笛の力を使い試練を乗り越えるという、大蛇や夜の女王などが登場する楽しくメルヘンなお話です。

ハイドンはモーツァルトより24歳年上で77歳まで長生きし、モーツァルトと同様に数多くの作品を残しました。“交響曲の父”と呼ばれていますが、100を超えるハイドンの交響曲のうち、4種の木管とホルン、トランペット、ティンパニがそろっているのは第99番以降のみであり、今回演奏する第104番は最後の交響曲でハイドンの集大成ともいえるべき作品で、とても活き活きとした躍動的な曲です。ロンドンを訪問した時に作曲・初演されて大成功を収めており、のちに「ロンドン」という愛称がつけられました。

古典派からロマン派へ～チャイコフスキー

演奏会の後半は、ロシアの大作曲家チャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」です。

古典派音楽はベートーヴェンの後、ロマン派へと発展していきます。古典派の形式を受け継ぎながらも、多彩な転調や感情表現、テーマ性を持つようになり、オーケストラの規模が拡大、世界に広がって各地で民族音楽と結びついた国民楽派が生まれました。その代表的な作曲家がチャイコフスキーです。

交響曲第6番の初演の9日後に亡くなり遺作となりましたが、急死（コレラという説が有力）だったため死を覚悟して作曲されたわけではないでしょうが、心臓の鼓動が消えるように終わります。「悲愴」という副題はチャイコフスキー自身が付けたものですが、ロシア語を日本語に直訳すると熱情的という意味になるそうで、自身は最高傑作と考えていました。

特に日本人にはチャイコフスキーを好きな人が多いと言われています。メロディが親しみやすくどこか懐かしい感じがするのは、隣の国だからかもしれません。

どうぞお楽しみに！（H.O.）

今後の演奏会予定

<第249回演奏会>

2020年4月12日（日）14時 東京芸術劇場

指揮 矢崎 彦太郎

曲目 メンデルスゾーン/交響曲第3番、ドビュッシー/交響組曲「春」、ドビュッシー/交響詩「海」

<第250回演奏会>

2020年7月12日（日）14時 東京芸術劇場

指揮 飯守 泰次郎

曲目 ブルックナー/序曲、ブルックナー/「ヘルゴラント」（男声合唱 栗友会）、ブルックナー/交響曲第9番

<第251回演奏会>

2020年10月18日（日）14時 東京芸術劇場

指揮 湯浅 卓雄

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志（1925-89）の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展（1976年にサントリー音楽賞を受賞）、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ（山田一雄指揮、1979～90）、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏（石井眞木指揮、1993）、伊福部昭米寿記念演奏会（2002）、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演（高関健指揮、2004）、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演（飯守泰次郎指揮、2006）など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券（どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能）を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0- 28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail：shinkyo@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時～9時、東京芸術劇場（池袋）、クラシック・スペース☆100（大久保）他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。3ヶ月～1歳2,560円、2歳～6歳児2,160円。お申込み・お問合せ：HITOWA キャリアサポート株式会社わらべうた 電話 0120-415-306（平日9:00～17:00、土日祝日休み）